

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 —麻生鳥のさえずり公園—

第46号 2016年1月31日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

雨天中止となった植樹祭&収穫祭報告

会長 間野 洋

11月15日に予定されていた第15回植樹祭&収穫祭は、残念ながら雨天中止となりました。午前7時には行政関係ほかにも連絡を行いました。

平成20年の第8回植樹祭&収穫祭も雨天中止となりましたが、内輪で開催しました。それでも140名の参加があり、豚汁も大鍋2杯分を作った実績があります。

今回は中止の連絡が届かない一般参加者および招待者用に、大鍋1杯の豚汁とユズ味噌味の茹で里芋、ビール・ジュースなどを用意しました。

10時頃には雨もあがり、11時過ぎには三々五々皆さんが参加してきました。最終的には会員も含めた一般参加者約85名、招待者は多摩美太鼓の子どもたち(収穫祭での演奏を予定していた)を含め約15名、計約100名の参加があり、森の幸を楽しく賞味いただきました。

今年初めて原木シイタケが収穫できましたが、まだ少量なため、招待者に酒蒸しにしてカボス風味で食べていただき、好評でした。



雨があがり来場者も増えた

素敵な自然ステージに「森展」

川崎・多摩美の山トラストの会 須田和順

麻生区市民健康の森と周辺地域を会場に、毎年秋に行っている「森展」が11月15～22日(一部28日まで)に開催されました。

「森展」は、森に感謝し、森と融合することを目的とし、子どもから大人、アマチュアからプロまで、森を愛する様々な人びとが、ジャンルを超えて表現する作品を展示するものです。また、それらの作品に触れながら、「多摩美の山」を散策し、里山自然を満喫すると同時に、新たな発見とイメージを膨らませていただきたいと期待するものです。

おかげさまで、今年2016年で5回目を迎えます。回を重ねるたびに、作品群もそのグレードを上げ、皆さまの期待も増えています。去年は、会期中「アート・パーティー」も開催。音楽、劇、ヨガ、いくつかのワークショップで楽しい1日を過ごしました。

素晴らしい自然溢れる「多摩美の山」、心地よい市民健康の森、周辺ギャラリー、地域の学校をはじめ、多くのご協力に感謝です。作品参加申し込みは、随時受け付けています。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

<http://tamamiyama-trust.net/>



顔はめパネル(森展の作品のひとつ)

● 5年生の「環境体験学習」

5年生139名の環境体験学習が、麻生区市民健康の森で、10月15日（木）に実施されました。半日のみでしたが充実した学習ができました。会員11名が参加。

学習内容は昨年と同じく、①暮らしに役立つ植物たち、②樹木の二酸化炭素吸着量の測定で、半数交代で行いました。まず、間野会長が当日の学習の全体的な説明、とくに樹木の役割、葉の光合成のしくみ、樹木が吸収する二酸化炭素の計算方法を分かりやすく話をしました。

①暮らしに役立つ植物たち

里山の草木がどれほど生活に活かされているかを、自然観察指導員高橋英さん、佐藤登喜子さんおよび会員のガイドで学びました。18人編成の4班にガイド各1人がついて8か所を巡回。

取り上げた植物は10種類、広場周辺のコナラとクヌギ、エノキ、ホオノキ、マユミ、チャ、ミツマタ、クロモジとワラビ、ヤマグワです。その中で関心が高かったのは、今回も茶と和菓子（ワラビ餅）、食べるときの高級爪楊枝（クロモジ）の良い香り。お札などに使われる和紙（ミツマタ）のことでした。森の植物を活かした先祖たちの知恵の話を熱心に聞いていました。観察樹のところには樹種名パネルと実物・写真を置きカラーリーフ「観察マップ」を使って説明しました。

②樹木の二酸化炭素吸着量測定

例年通り、班別に樹木の幹回りを測定し、葉面積×吸着指数＝CO₂量（kg/年）を算出し、人間が排出するCO₂何人分に当たるかを計算しました。

● 3年生の「秋の森の観察体験学習」

11月26日（木）予定の秋の森の観察が雨で中止となりましたが、子どもたちが楽しみにしているとのことで、急遽、12月1日（火）

に1時間の短時間で実施（児童121名）。初めに自然観察指導員高橋英さんが説明、あとの学習には会員5名がつき、先生4名にも協力しました。

学習内容は、①種の旅立ち、②子どもたちが自分で決めた課題＝樹木、鳥、昆虫などが季節でどう変化しているかの観察、③ネイチャービンゴゲーム。

①種の旅成ちは、4つの植物に説明者が1人ずつ立ち、4班が順次学びました。樹種はモミジ（風を利用して運ばれる）、ガマズミ（鳥に食べられて）、イノコズチ（動物に着いて）、コナラ（落ちて転がって）。

実物とカラー写真を使って説明しましたが、今回初めてのガマズミは時期が遅く実の写真だけ、モミジのプロペラ羽根も写真と以前に採取したものになりました。

②と③は同時に実施。この間、藤棚のテーブルに置いた実物に集まり、高橋英講師に熱心に質問していました。



3年生 秋の森の観察：種の旅立ち

● 西生田小学校創立140年記念式典に出席しました

明治8年（1875年）、生田学校細山分教場から始まった伝統ある学校の式典に、麻生多摩美の森の会として間野会長と私の2人が招待されました。

140周年記念のスローガンは「未来へとだけキラキラ笑顔」。子どもたちの素晴らしい合奏があり、3年生のテーマ「多摩美の自然大好き笑顔」もあり、児童実行委員会から当会が表彰を受け、とても感激しています。

◆ヤマユリ球根の植付け 間野 洋

当会がヤマユリの植栽を始めたのは平成14年12月で、北斜面・西斜面に各5個ずつ球根を植えましたが、残念ながら1株も育ちませんでした。次が平成20年、4ヶ所に植え付け、育ったのは現在の「ヤマユリ園」と南東斜面の平坦地です

平成24年、麻生区政30周年記念の際、麻生区の花「ヤマユリ」、木「禅師丸柿」が指定され、翌年、幹事会でヤマユリを少しずつ増して行くことが決まりました。

26年10月、麻生ヤマユリ植栽普及会のご協力（無料で球根10個配布）と購入を含めて25個を上記の2ヶ所に植栽。日当たりを妨げる枝を多少伐採したものの生育は不十分でしたが、全部で約30株花をつけました。

今年度は、10球購入。南東斜面平坦地に5個、下の畑の篠竹の斜面に5個植えました。

ヤマユリの植栽は難しく、今後、適地を見つけて、植生を広げていこうと考えています。

◆シイタケの収穫始まる 中村 浩

平成26年1月にコナラ1本を伐採し、4月に菌の駒打ちを行い、ホダ木30本を伏せた。

説明書によれば、植菌から2夏経過後、または2年後から収穫ができると書いてある。27年秋には2夏が過ぎたことになるが、1年半しか経っていない。10月中旬にホダ木を見たがシイタケが出てくる徴候はなく、やはり2年後の28年3月以降に出てくるものと思っていたところ、11月3日に見に行くと直径20cm程のシイタケが30個ほど出ていた。その後は、毎週10～30個ほど収穫できた。

収穫したシイタケは、11月15日の植樹祭&収穫祭の中止を知らずに来られた方々にホイル焼きや豚汁の具材として振舞った。肉厚でおいしく好評であった。

多摩美の森の活動に参加され、自分で育てた里山の恵みを分かち合う方が一人でも増えることを期待しています。

■カリタス女子中学校のクリスマス奉仕

中谷 一郎

12月16日（水）、3年生187人全員で実施しました。この活動の主催は川崎市公園緑地協会ですが、今回は本庁建設緑政局みどりの協働推進課、道路公園センターからも応援に来られました。協会の人材バンクスタッフなど17名が指導にあたり、学校職員、多摩美みどりの会と多摩美の森の会員が数名参加。

協会の野牛氏の説明のあと、3隊で作業を開始。A隊（127名）は6班に分かれ、5班はふれあいの森の枯れ枝集めなど、1班はみどりの会のタンポポ園・野草園で、刈払いした草を熊手で集め集積場に運びました。B隊（30名）は「鶯のお宿」のアズマネザサの蔓の除去。マスク・手袋をし、鎌を使って、指導員の指示もと勇敢に実施し、見る間に綺麗になりました。C隊（30名）は、伐採済のアズマネザサを鋸で切断し束ねて集積所に運搬。

生徒たちの感想は楽しかったとのこと。当会としても大変助かり感謝しています。

■里地里山チュラリスト養成講座

間野 洋

12月5日（日）、里山フォーラム jn 麻生主催「里地里山ナチュラルリスト養成講座」の今年度3回目が開催されました。テーマは「雑木林の再生や収穫祭などの多角的な活動を学ぶ」。場所は、麻生多摩美の森、多摩美みどりの会の保全地、五反田川源流の谷戸です。参加者は主催者3名を含め25名。

まず当会では、活動内容を資料と写真パネルで説明し、とくに雑木林の管理および収穫祭について詳しく話しました。

また、作業体験として、シイタケの原木用にクヌギ2本を伐採し、玉切りして原木約25本をつくり、保管。同時に植樹祭中止で植えてなかったキンモクセイ3本、アジサイ5本の植樹をしてもらいました。

作業終了後にホダ場を見学し、シイタケが発生していることに皆さん驚いていました。

次に多摩美みどりの会のタンポポ園・野草園で、小座間会長が管理方法、現状などを説明。その後、参加者の皆さんは五反田川源流の高石の谷戸に向けて出発しました。

◆アズマネザサ開花調査と対策

中村 浩

昨平成 27 年春にアズマネザサの開花が確認された。一般に竹の花は 60 年くらいで咲き、その後枯れると言われている。しかしササについては諸説あるが、ほとんど解明されていないようだ。9 月、10 月に「鶯のお宿」一帯を 5ヶ所調査し、その結果概要は次の通りである。

- ①すべての箇所、開花痕のあるササが 60～100%観察された。
- ②今年伸びたササでは、開花痕はあるが葉は枯れていない。
- ③数年目以降のササでは、開花痕のあるササの茎は緑色をしているが、葉はほとんど枯れていた。
- ④半日陰の場所では、開花痕のない元気なササが 10 本程度あった。

今後、今年 6 月と 10 月に再調査し、対処方法を検討する予定である。

◆花と緑の交流会について

副会長 井上正樹

去る 11 月 29 日中原市民館において、公園緑地の維持管理や緑化推進に取り組むボランティア団体の活性化や交流を目的に開催された。今年のコンセプトは「公園が好き！里山が好き！草花や木々はもっと好き！そしてなにより、緑あふれる川崎が大好き！！そんな皆さんに送るコンサートと講演会」。

ミニコンサートは多摩美を本拠地に地元音楽祭への出演や小学校での演奏活動をしているハンドベルの“ミルキーウェイ”。

講演は、京都学園大学バイオ環境学部の中川重年特任教授。中川氏は、広葉樹の森林・樹木を中心とした環境デザインや利用を得意とし、大都市の背後にある里山の保全にかかわり、市民による保全活動など多岐にわたる紹介があった。素晴らしいところは学生達といっしょに地道な活動をされていること。

展示でユニークだったのは、もりもりクラブが開発した竹を垂直にまっすぐ切断できる器具。実際に正確にきれいに切断できたのに驚いた。また今年も竹の器に自由に花を生けるコーナーは順番待ちするほど盛況だった。

●今後の活動予定 副会長 中谷一郎

新しい年を迎えましたが、会員の高齢化と、貴重な 3 人の学生会員の卒業とが重なり、活動のパワーに心配もあります。できることを地道にやっていきましょう。また西生田小学校「多摩美の自然大好き笑顔」のように、自然を大切に、子どもたちがさらに多摩美の森を知り、理解を深めてもらえるよう努力したいと思います。皆で楽しんで取組み、将来につながればと思います。

2 月 6 日（土）幹事会、アズマネザサの蔓の除去、間伐、草取り

2 月 12 日（金）西生田小 3 年、冬の森観察

2 月 13 日（土）オーロラ天文台 冬の星空の観測会（夜）

2 月 20 日（土）多摩美の森プレーパーク

2 月 21 日（日）アズマネザサの蔓の除去

2 月 27 日（土）里山フォーラム in 麻生

3 月 5 日（土）幹事会、畑の施肥、除草

3 月 20 日（日）畑の耕耘、草刈り、清掃

4 月 2 日（土）幹事会、樹木の剪定、草刈り

4 月 17 日（日）草刈り、ゴミの収集、清掃

4 月 23 日（土）第 14 回通常総会

区役所会議室 3：30～5：00

5 月 7 日（土）幹事会、草刈り、清掃

5 月 15 日（日）里芋の植付け、樹木の手入れ

この間補助作業日は第 2、第 4 水曜日です。

10 月～5 月の作業時間は 10～12 時です。

★会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わって下さい。年会費 1,000 円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/000028128.html>

◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

中谷一郎 044-945-4667

ichiro-nakatani@nifty.com